やまなし自然首都圏構想研究会
第１回二拠点居住推進部会　議事録

日時：令和２年９月１５日（火）10:00～11:30
場所：山梨県庁防災新館　４０１会議室（テレビ会議）

◆出席者：長崎　幸太郎　山梨県知事

【座長】
東　博暢　　（株）日本総合研究所 主席研究員

【委員】※50 音順
有賀　翼　北杜市　主任
飯嶋　利之　富士観光開発（株）　不動産事業本部　取締役本部長
関岡　真　（株）清里の森管理公社　専務取締役
中村　和男　シミックホールディングス（株）　代表取締役ＣＥＯ
平林　良仁　河口湖音楽と森の美術館　代表
藤本　裕之　（株）ジェイアール東日本企画　執行役員
ソーシャルビジネス開発局　局長
丸山　裕貴　東京大学未来ビジョン研究センター　受託研究員
渡辺　大介　富士河口湖町　係長

【事務局】
リニア交通局長、リニア推進監、リニア交通局次長、
リニア未来創造・推進課長、知事政策補佐官、知事政策局政策主幹、
森林環境部県有林課長、産業労働部主幹、観光文化部観光資源課長、
県土整備部住宅対策室長

◆会議次第：１　開会
２　知事挨拶
３　出席者紹介
４　やまなし自然首都圏構想研究会の組織構成について
５　議事
〇二拠点居住の推進について
６　閉会

〇質疑応答

平林委員

・二地域居住と二拠点居住について、あまり大した差はないと思うが、分けた理由は何か。国土交通省が推進している二地域居住という言葉で統一した方が良いのではないか。

事務局

・二地域居住という言葉は従来からあり、今回ポストコロナの中での本県の新しい位置として、二拠点というところに非常に力を入れていきたい。これまでの二地域居住、移住等も否定するものではないが、企業や団体を中心とした二拠点という形で進めさせていただければと考えている。

〇議事

東座長

・二拠点居住推進部会ということで、皆様からご意見をいただきたい。

・デジタルニューディールという言葉が骨太の方針に入ったが、東京一極集中型から多核連携型の国づくりということで、成長戦略の 1 丁目 1 番地にもなっていて、国交省からも様々な方針が出ている。このあたりを具体的にどう進めるかということが、この研究会の一つの目的。

・事務局からの説明を聞いて、皆様からご意見やご提案を頂ければと思うかがいかがか。

丸山委員

・二拠点居住を進めていくにあたって、三点申し上げたい。

・ユーザーサイドから見たときに、おそらく子育て世代の方々がメインになると思うが、その方々のニーズを考えたときに、今までの移住ではなく、拠点を増やしてということになると、まず一点目はコストの問題が出てくる。既存の都内の家を持った上で、さらに地方にも一つ、所有、利用契約などによってコストが発生してくるので、利用しやすい料金体系、そういった不動産を用意していくことが必要になるかと思う。

・合わせて、移動の面で、リニアが通るということで、移動のしやすさといったことが出てくるかと思うが、車であってもリニアであっても移動コストは発生してくるものなので、例えば Go To トラベルではないが、支援できるような仕組みがあると、移動も非常にしやすいといったところがあるかと思う。

・最後に子育て世代に向けた教育がある。お子さんが片方の拠点の方で、例えば 2、3 週間暮らすとなった際に、その間山梨の小学校、中学校に通えて、出席日数にカウントされるといった受け入れ側の教育体制が整えられると良い。逆に子育て世代の方からすれば、山梨の自然豊かな中でそういった友達ができると、より地元コミュニティに馴染めるというところもあるので、教育といった後ろの支えもあると非常に良いのではないか。

東座長

・今の点は他の地方でも同様で、やはり教育や医療、基本的なベースの社会インフラが整っていないと移れないという意見が多いので、この辺りは通信インフラに加えてマストかと思う。

関岡委員

・今年4月から8月までの別荘の購入希望者について調べてみたところ、約70件の具体的な問い合わせがあった。昨年度は20数件ということで、約3倍以上の問い合わせがあったことになり、コロナの影響によって購入希望者が増えたと考えている。

・今日はいつもの事務所ではなく、私どもが管理している森のプラザという施設の空き店舗から参加しているが、ここをコワーキングスペースとして、別荘を購入された方のワーケーションの場、あとは企業さんや研究機関でミーティングをしていただけるような場所としての活用を考えている。

・また、使っていないテニスコートもあるので、こちらでは、例えば犬好きなご家族のためのプランだとか、あとは子供たちが遊ぶスペースとして、フットサルといった運動ができるようなところに変えていけないかというようなことも考えているところ。

・これらによって差別化を図るなかで、このコロナ禍の中で存在感を出していけないかと考えている。事務局でも、様々な予算をご検討いただいているということで、それらを活用して整備していければありがたい。

東座長

・東京では別荘地のポスティングも増えてきている状況で、実際に友人で移った方も多くいる。そういった環境はかなり精査されていると思う。

中村委員

・私は、日曜日の夜から水曜日の午前中までは、東京の浜松町にある海が見えるオフィスで仕事し、それからまた北杜市に戻って日曜まで過ごすことを通常の生活のスタイルにしている。

・一つは、デュアルライフを送っている方を、行政としてどう把握するかという問題がある。住民票という考え方ではなく、北杜市でも暮らしている、活動している方に、何らかのインセンティブを与えられれば、その人達を発掘できると思う。山梨は、山梨中央銀行さんが強いが、山梨中央銀行さんですら別荘族を把握しているわけではないと聞いている。地方では現金を持っていないと動けないので、必ず地域のATMでお金を下ろしている。例えば、小淵沢駅の山梨中央銀行さんのATMでどこの銀行のカードを使っているかを見れば、ほとんどがみずほ銀行といった三大銀行のカードを使っていると思う。その人はどこに

いるのか。そういった人達の把握が大事と考えている。

・山梨、特に北杜市の PR の切り口について、「自然がいい」いうだけで長期間その地域にいられるわけではない。「自然がいい」だけではなく、アートと文化、アート＆ウェルネスなど、別の切り口も大事。

・次に情報について、人に情報がついているなかで、情報を持った人とのコミュニケーションが大事である。人の集まる場所に出向くことが一番良いが、県外の人は地域の公的な場所には積極的に行きたがらないため、むしろ美味しいレストランやゴルフ場で出会う機会を設けて、積極的に情報を交換できるようにすることが重要。

・また、ハイエンド対策がある。やはりハイエンドに情報がついているので、そのハイエンドをいかに巻き込むかが重要。文化やウェルネスを切り口にした、ハイエンドが参加するようなイベントを企画するなど、そこも対応を考えなければいけない。

・小淵沢周辺は私と同じような生活スタイルの人もかなり多く、同じところで食事したりして何度もお目にかかるのでお話すると、最期は小淵沢で暮らしたい、小淵沢の施設に入りたいという。

・小淵沢には「わがままハウス」という、ペンションを改造して部屋を貸している施設がある。色々な人がそこにステイしているが、介護士の訪問もあるので高齢者も安心して生活できる。東京大学病院の先生方もリタイアして移り住んできているが、その先生たちも参加してサポートするといった仕組みを作っている。また、自然発生的にオペラの観賞のグループを作ったりしているが、その様な方々が居ることを知られていないことがあるので、こうした別荘族の動向をまずは把握する。

・企業のリモートワーク導入が増えているが、リモートワークが広まると、最終的にはフリーエージェント化が進む。一人が一つの会社に所属して仕事をする時代は終わり、幾つかの仕事をかけ持つような働き方になる。このフリーエージェントに対してサポートできるかどうかということが大事になる。

・さらに、移動手段にも対策が必要だと感じている。要するに運転代行がない。車社会の地域にありながら、食事に行っても代行がないのでお酒が飲めない、お酒が飲めない文化はつまらない。ステイしているホテルが迎えをしてあげても、今の状況ではお金をとれないので、そういうところでお金を取れる形にしてあげるか、もしくは補助金を出すなど検討してはどうか。

・これは知事さんにも申し上げているが、やはり山梨をいい場所だと思わせるには、映画のロケ地として活用してもらって、世界発信するとよい。映画のロケが出来る場所があるので、例えば県有地を利用してもらうなど規制を越えて改革していくことが大事かと思う。

・冬の対策も必要。自然が良い場所は大体、冬場は寒くて大変なところが多い。もし冬場に、お年寄りの方が雪に閉ざされたらどうするか、災害時の対応も考えておかなければいけない。

・長期的な視野で考えた場合、大事なのはやはりハイエンド対策と国際化。ここの良さをア

ピールするためには世界に発信できる映像があれば良いのではないか。他の場所に比べて、ここがいいですよという特長がはっきりと分かるものがあればよいと思う。
・いずれにしても、ここは大変すばらしい場所なので、ぜひ私も一緒に支援させていただきたい。

東座長

・一つ地方で起こっていることをご紹介すると、海外富裕層が ID を持ちたいという話がある。海外の、特にシンガポール、香港、台湾の富裕層が、エストニアの E-Residency のようなものだが、日本の ID を持ちたいということで、地方都市間連携の ID 相互乗り入れということを今考えている。住民票ではなくある種のバーチャル住民票を出そうかという話を、国際標準的な ID を使ってやっていく。それはマイナンバーや各国の ID だと難しいが、各国が出している公的個人認証は各国で終わらせていただいて、基礎自治体の ID 連携というようなことで、私が今動いている。
・やはり富裕層は基本的にプライベートジェットで日本に乗りつけて、京都の副知事と打ち合わせしたときには、70 ヘクタールほしいという話も出てきている。以前申し上げたかもしれないが、政治的に不安定なので、キャッシュフライトを日本に置く、資産分散で日本に置くという形が各地で出てきている。それもニセコや京都ではなくて、それ以外の北陸や九州といった地域にも来ているという話を金融業界からも聞いている。
・ハイエンドのニーズがどうなっているのかというところは、日本は実はあまり経験がなく、本当のトップのスーパー富裕層、マカオとかに出入りしている人たちが求めている社会インフラ、おもてなしのクラスというところが、日本ではまだ経験のないところになっていて、そういったハイエンドの人たちの移動に関しては、全く日本で供給できてない。どこでもプライベートジェットで飛んでくるような人達なので、完全に密空間で移動していくことに対する動線設計すらできてないということが問題になっている。
・ただ、そういう方々は当然ながらアートやウェルネス、その領域を見ているので、その辺りの体系的な、下手をすればもはや国をまたいだ居住になるが、ハイエンドに向けた対策をどうデザインするかということは、今後の日本の少子化などを考えたときに、必須になってくると思われる。
・アート・音楽に関しても、先ほどのロケ地の話もあるが、やはり音楽業界からすると山梨と静岡が聖地になっていて、屋外からの音楽エンターテイメントというところから徐々に復活させていくというような動きがある。そういう意味では、日常にどのように音楽とかアートが溶け込んでいく世界をどう作るのかという話は、今まさに、実際のアーティストの方々とか音楽業界とも話をしているところ。文化的なところを、どうやってまちづくりと一緒になって整備するかという観点は、まさに富士山を抱える山梨において非常に重要な観点かと思う。

中村委員

・国際空港としては成田、羽田、名古屋、中部、松本、それから国際港としての静岡県沼津から山梨に入ることができる。プライベートジェットともう一つ、忘れてはいけないのがヘリコプター。ヘリコプターの基地、ヘリポートを整備して VIP を招き入れる用意があっても良い。

・ジャクソンホールではないが、金融・経済シンポジウムといった国際会議を誘致するというのも一つのやり方。

・東さんがおっしゃった ID の発想も良い。

・音楽関係で言えば、FUJI ROCK も今迷走しているので、広大な場所を使用できるのであれば、山梨での実施も可能と考える。

・もう一つ、地元出身のミュージシャン、カルロス・ケー君のように、小淵沢からインターナショナルに発信したいという人たちがいるが、そういう情報が拡がらない。非常に特殊な人たちではあるが、その人自身がブランディングになるので、支援策も一つ作っておかなければいけない。一般論とはまた違うところで、鋭いエッジを立てるためにどうしたらいいかを議論しておかないとブランディング価値が上がらない。ぜひこういった観点を大事にしていただきたい。

東座長

・ターゲットやペルソナは非常に重要で、それによってアプローチが全て変わる。ターゲットを明確化しながら、先ほどのヘリポートに関しても空の交通が当たり前の人なので、交通 MaaS といっても、陸海空すべて含むくらいの考え方で組まなければ難しい。エストニアのタリンでは MaaS を無料化していこうとなって、その結果、定住人口が増加している。交通を無料化してどうなるのかという話もあったが、いつでも無料で交通アクセスできるということの安心感につながり、皆さんが引っ越してきて、人口が増えるという現象が起こっている。そういう意味では、そこの安心感、セーフティネットをどう作っていくかということは非常に重要なポイント。

長崎知事

・おっしゃる通り、移動は大変重要な話だと思っている。

・ヘリポートの話は中村さんからいろいろ教えていただき、考えていこうと思っている。静岡空港はプライベートジェットの駐機場があるので、静岡空港に降り立っていただいて、そこから山梨までヘリでやって来られるような、こういう動線をつくれないだろうかと思っている。

・それからもっと一般に、先ほど代行の話もあったが、おっしゃるように二次交通が極めて脆弱な部分がある。そういう意味では MaaS の推進はもはや実験ではなく、本格的に取り組んでいくべきことだと考えている。山梨の場合は特に、例えば東京から来られる方は、

中央道がどうしても混んでしまうイメージがある。その一番混むところを電車でスルーしていただき、そこから先は逆に車でないと動けないという状況なので、そこを、MaaS を活用、普及をさせて、どこでも移動できるようにしたい。こういった方向性は念頭に置いて、これから様々取り組んでいきたい。

平林委員

・今現在、例えば二拠点居住、あるいは単に二地域居住を考えた時に、まずどこに探しにいくか、皆さんに聞いてみると、まず軽井沢、それから箱根、伊豆、一部千葉もあるが、やはり山梨という選択肢を、もっと自然に出てくるようにアピールしていく必要がある。例えば BS 山梨、テレビ、あるいはまたインターネットで、これだけ魅力的なまちがこんなに近くにあるんだということを、どんなふうに知らしめていくかということが非常に大事なポイントになっていくのではないか。

・先ほども話が出ていたが、おいしいレストランが非常に少ない。今現在、東京のレストランが本当に壊滅的となっているが、これは、個人シェフで有名な人を、何かのインセンティブを付けてこちらに引っ張ってくる絶好のチャンスではないかと思っている。そうやって 2、3 人が来ると、あの人たちが行くのであれば自分も行ってみたいという一つの道筋ができるのではないか。

・これは軽井沢が、いきなり有名レストランが動いたのではなく、ある一人の有名シェフが移ることによって、あの人が行くのであれば自分も行ってみようかということが起こっている。積極的にアプローチをかけて、それに対しての資金補助も投資家から集められるので、県が主導権を持ってやっていく。そして選択肢として二拠点居住を考えたときに、最近山梨頑張ってるよねというイメージをいかに出していくか、これが非常に大事ではないかなと考えている。

・最後にもう一つ、コロナウイルスに関して、非常に山梨県、あるいは特に富士山麓は少ないので、このことも含めて、もっと安全・安心、自然環境豊かな山梨というものをどのように伝えていくかということも大事。

東座長

・食に関しては非常な重要な観点で、有名シェフを世界中から集めているのは金沢。それともう一つ、大きなイベントをやっているのは大阪で、ニューヨークのフードラボを誘致して、有名なシェフが大阪に集まるということで、高架下で開催したところ、1 日 5000 人、3 日で 1 万 5000 人の来場者があった。それくらいに食に関するインパクトは大きいので、ここは非常に突き詰めていく必要がある。

・一つ付け加えると、京都に移住してきた欧米の企業家の方が口を揃えて、移住してきた理由が三つあると言っている。これは全くベンチャー支援施策とは関係が無く、まず一つは京都の名前。二つ目が自転車で移動できるかどうか。三つ目が食だということなので、実

はこのあたりが非常に重要。

渡辺委員

・自分が今肌感覚で、富士河口湖町に移住、コロナで来てみたけどいいよねという話も聞くが、やはり大きなハードルは、家族の理解と、会社の理解だと思っている。

・そう考えると、スタートアップのような機動力のあるところは動きやすく、先ほどフリーエージェントといったお話もあったかと思うが、一般的に東京都内で働いている方で、テレワークもされていて、山梨良かったよねというときに、何ができるかと考えると、個人の移住だけではなく、法人の移住というものも一つのテーマとして位置付けていくと面白いと考える。

・会社もこっちの方に来ていただくと、東京一極集中の緩和にも繋がる、ビジネスもしっかりと成り立つという、格好いいモデルができると良い。パソナが淡路島に一部移るというような報道もあったが、ああいった目出しになるようなもので、誘致というとすぐ工場誘致と捉えがちだが、そうではない。オフィスとしての企業誘致というものも考えていくなかで、そんな面白そうな会社が行っているのであれば、山梨面白いのかもしれないよねとなり、そこからビジネスにつなげていく。やはり行政主導ではなく、ビジネスがどんどん展開していくことによって、そこに必要なものがまた見えてくると思うので、そこを支援していくという形が良いと思う。

有賀委員

・北杜市の移住・定住の取り組みとしては、電話による移住相談をメインに、オンラインの相談会なんかも実施しているが、その他空き家バンクやお試し移住、お試し住宅という制度も、すでに実施しているところ。

・空き家バンクについては、成約数が例年 20 から 30 件で、平成 19 年から始めて、登録 200 件のうち 7 割ほどが成約に至っている状況。

・アンケートにもあったが、空き家バンクの問題として、空き家が老朽化していてそのままでは使用できない、断熱材がなくて冬耐えられないという状況があるが、北杜市では清掃費のほかに、平成 30 年度から改修の補助制度というものも始めており、毎年 10 件から 20 件ぐらいの申請があるような状況で、大変ありがたがられているところ。

・コロナ禍のなかでも、7 月 8 月以降は空き家バンクの相談、成約もかなり増えてきている状況。市の移住・定住のホームページも昨年に比べて、3 倍ぐらいにアクセス数が増えている状況もあり、皆さんに興味関心を持っていただいていると感じている。

・移住・定住の相談に来た方から寄せられるのが、県内のシェアオフィスとか、コワーキングスペースの情報が、集約したポータルサイトが欲しいということ。個々の情報についてはホームページで調べればいいが、まとまっているとありがたいという声があった。これは県の方で、ポータルサイトを立ち上げる予定ということなので、官民で協力して情報発

信していければ良いと思う。

・また、これもアンケートであったが、空き家バンクでここ最近ペンションの登録が増えている。八ヶ岳南麓ではペンションがかなり多くて、事情により手放す方も増えているが、空き家バンクは基本的には対個人向けの制度なので、ペンションでは広くて個人では手を余らすなど、なかなか成約に繋がらない状況。企業などがコワーキングスペースやレンタルオフィスとして利用、また先ほど中村先生の話にもあったが、わがままハウスといったことに上手くマッチングできる体制ができてくれば、もう少しこの活用ができるのではないか。

東座長

・お二方から話があったとおり、やはり法人の丸ごと移住ということで、企業誘致というよりは、どちらかというとプロジェクト誘致やコミュニティ誘致に近いが、やはり大企業がそこに集まる意味、理由がないと集まらない。そういう意味では、やはりその地域に、それこそアントレプレナーシップコミュニティがあるなど、新しい事業を起こすクリエイティブな場所として拠点を位置づけるという理由がないと、ただ単に家賃が安いだけではどこでも安いので難しいかと思う。

・皆さん東京都市部から 2 時間半以内ぐらいのところで探しているので、そのエリアでどう差別化するのかというところは、やはりただ単に自然だけではなくて、面白い人たちがコミュニティとしているかどうかというところが非常に重要。意外と行政がこのコミュニティづくりのところがおざなりになってしまっていて、箱を作って終わってしまうというところが非常に多くある。ここをどうケアするかというところ、人を呼ぶためのインパクトがあるというところが重要。

長崎知事

・そうした意味では今回、燃料電池の評価機関である FC-Cubic、業界では非常に重要な存在だが、本県に来ていただくことが確定している。彼らは燃料電池の技術者のネットワーキングのハブになるということなので、こういった存在をしっかり活用して、そこに来られる方々を二拠点居住にも取り込んでいきたいと思っている。

・こちらに限らず、様々進めていきたいと思うが、今そういったことがまさに動き出しているということをご紹介させていただく。

東座長

・まさにそういった方々がハブになり世界中から人を集めるということが出てきているので、そういう特徴をどんどん出していければと思う。やはり地方政策に特徴をどれだけ打ち立てるかということが差別化になる。

藤本委員

・昨今我々の方に相談が増えてきているが、やはりワーケーションの実証実験、企業による実証実験が増加してきている。形態としては、大体 20 名ぐらいを、2 週間単位で住まわせて、それを 2 回実証して、その結果を見るということなので、企業にとってみると、場所について慎重に選択をしているという現状がうかがえる。

・特に交通機関との連携ということが言われていて、それで弊社の方にお話をいただくケースがあるが、そういう意味で鉄道沿線という部分は、ポイントとして重要視されている。

・また、山梨県の特徴として考えると、多様な人たちを受け入れる環境は整っていると思われる。我々は福島などいろんな地域で活動をしているが、現状として、山梨県のイメージとしては、湖畔リゾート、高原リゾート、山岳リゾート、温泉リゾート、農園リゾート、人々が憧れるようなリゾートを持っている場所であるので、これとどのように結びつけていくかということになるかと思う。

・そのなかで、やはり首都圏で生活をする人たちの生活のスタイルの選択ということがあって、まず仕事を優先、現状の仕事を優先した生活なのか、趣味を優先した生活なのか、子育てを優先した生活なのか、セカンドキャリアという部分を優先した生活なのか、それ以外に起業という部分で、山梨県で起業をしようという、こういうものを優先した生活なのかという部分がポイント。

・そういう人たちを、情報も含めて集める仕組みというものが必要ではないか。それがコミュニティという非常に重要な部分だと考えていて、ではこのコミュニティをどのように作っていくかということだが、私どもは別の事業で、地域のふるさとプロデューサーを育成する事業を行っている。山梨県でも非常に数多くの人材がいて、今日も北杜市に在住しながら IT 企業に通っているという方と面談をしていたが、やはり山梨県の良さというものを皆さん実感されていて、それを仕事とどのように結びつけるかということで考えられている。

・その入口として、山梨県の入口はどこで考えるべきなのか。普通に考えると皆さん、甲府というイメージが大きいと思うが、やはり東京に近い、首都圏から近いということであれば、大月という選択もあるのではないか。大月という場所は、特急も止まるうえ、中央線自身も大月まで延伸しているので、ここからも通える圏内になっている。実は私は高尾に住んでいるが、大月発の電車は高尾では座れない状況。

・大月をゲートウェイ的な要素に持っていきながら、河口湖の方に向かう分岐、甲府の方に向かう分岐でもあるので、ここに情報のコミュニティゾーンみたいなものを作っていく、新しい駅の役割ということもあると考えている。そこで、先ほどの生活のスタイルの選択をしていきながら、まず産学官の連携地域コミュニティというものをやっていく。そして、地域プロデューサーとしての支援制度を行っていきながら、地域の産業も、これから支えていくような仕組みづくりも必要と考えている。

・それに加えて、余暇としての様々な楽しみがあるということも伝えながら、まず山梨県の

イメージづくりと発信が大事で、私がイメージする一つのものとしては、豊かな生活の実現をサポートする山梨ということがある。やはり表現をしていく、まず宣言をするということも大事と考えている。

・そして、中身をやはりニーズに合った対応していくということで、これから整備をしなければならない様々な部分がある。移住希望者の要望として、先ほども出た子育て環境、医療体制、ライフスタイルをどうするのか、趣味と関連性があるのか、またインフラが充実しているのか、首都圏までのアクセス、コミュニティはどうなのか。

・特に問題なのがコミュニティであり、我々も地方創生のお仕事を数多くさせていただくときに、やはり地域の閉鎖性によって、他のものを受け入れない環境はどの地域でも多い。そのため、住んでみたけれどもすぐ移動、移転してしまった、引っ越してしまったという方は数多くいる。つまり、そういう人たちを支える制度というものが必要となる。やはり、東京から移住してくる人たちは同じ趣向を持った方々が多いので、こういう人たちが集まれるような場、コミュニティが必要と考えている。

・そういう場所という設定をしていきながら情報を共有化し、みんなで安心して、様々な悩みとか課題を解決できるような場所、また何か必要な情報はそこで提供できるような場所が、これからは必要になってくるのではないか。

中村委員

・名古屋、大阪などの関西圏から見た時、やはり山梨が良い。近くには大きい中部圏というものがあるので、そこも意識して欲しいところ。

・確かに東京圏は GDP も大きく、魅力があるが、山梨県は名古屋、大阪のアクセスも考えるべき。一番問題になるのは塩尻で乗り換えなければいけないということで、塩尻での乗り継ぎの待ち時間は無駄。そういう意味では、名古屋から直通で来られるように、ぜひＪＲに働きかけてもらいたい。

・コミュニティということでは、意外とゴルフ場がコミュニティになっている。そこで会議もできる。そうしたコミュニティでやはり一番大事なのは、外から来た人が参加できるものにすること。パブリックスペースを作ればいいということではなく、また違った仕組みのコミュニティを作らなければならず、どう誘導していくかということが非常に大事。

東座長

・藤本委員の意見はすごく重要で、やはり道の駅的な軌道の結節点、今、東京で私が都市型道の駅というのを豊洲でやっているが、例えば自然首都型道の駅はどうあるのかという話も、この研究会で重要なテーマかと思う。

渡辺委員

・先ほどの名古屋、大阪というテーマは自分も重要と考えている。リニアがつながった時に

は、やはり首都圏からのお客様だけではなく、名古屋から、新東名もつながってくるということを考えれば、名古屋、大阪からのお客様、また人の移動というものもテーマにしておくと、リニアが延伸されたときに活かすことができる。

平林委員

・知事に質問だが、二拠点居住、二地域居住を進めるなかで、例えば国の税制支援で住宅ローン控除を二軒までということは、山梨県が提案して実現する可能性はあるのか。

長崎知事

・やってみる価値はある。

平林委員

・東京ともう一つの住まい、あるいはまた他の形のなかで、税制支援というものがくっつくと、大きな一つの枠組みを作ってお迎えすることができるのではないかと思うので、ぜひ二つの住宅ローン控除ということができないかと考えている。

長崎知事

・大変貴重な意見で、これはチャレンジするに値するテーマ。これからやっていきたい。

東座長

・本格的に二拠点や二都市、二地域となってきた時の改革は山ほどある。まずは労働法関係をどうするのかという議論も、規制会議の方でも当然出てきている。例えばワーケーションを大企業で導入したときに人事総務からしたらどう管理するのか、兼業したときに移動時間はどちらが保険を出すのか、あらゆることが今顕在化してきている。
・基本的な労務の話や今の税制の話に関しても、単純な観光ではなく、どちらかの社会インフラにお世話になっているので、ある種のパンドラの箱だが、これだけ地方に散っていって、そこはいずれ確実に制度的な疲労が起こってくる。
・今の若い 30 から 40 の世代で、やはり家を買うのを控えていて、今の時代にフラット 35、35 年ローンというのはどうかという声もある。
・そこで私がよく申し上げているのは、そうした場所の呪縛からやっと離れたという若者が多いということ。これまでは、義務的移動だとか義務的居住ということがほとんどで、そこから全部解放されたので今こういう議論になってきていて、人間らしい生活ができる環境をまちづくりとしてどのようにやっていくのかということが非常に重要。
・国土交通省さんと話をした内容をシェアさせていただく。実は国交省さんがコロナを契機としたまちづくりの方向性ということで、今までの都市開発とかを根本的に見直す可能性があるだろうと、6 月ぐらいから随時、識者にヒアリングを行っており、私も対応して

いる。私の身内の方もたくさん入っていて、これからのまちづくりのあり方ということの論点が整理されている。

・これからまたこういった検討委員会が始まるが、重要なのが、この都市・オフィスの今後のあり方と新しい政策ということで、この複数の用途が融合した職住近接に対応するまちづくりということ。今までの都市計画とかであれば、ある種、ここはゾーニングしてこういう目的であるという整理をしていたが、時間とともに用途を変えていってもいいよねという考え方も出てきている。

・当然今都内では、コロナのために商店街はすっからかんで、みんな住居に避難している。じゃあその商店街をどうするんだというような問題も当然出てきていて、このあたりは根本的に都市計画の考え方を変えていかないといけない。

・もう一つ重要なのは交通。まちづくりと一体となった総合的な交通戦略ということが、先ほどの一次交通二次交通の話。欧米の人からしたら自転車をバスに入れて移動するといったようなカルチャーがあるが、日本ではなかなか入れられないなど、ここの交通系の接続がうまくいっていないというのは、海外から来た人から良く聞かれるところ。

・山梨は広いので、東京では出来ない交通の接続結節ができるのではないかということが徐々に論点として出てきているので、これを自然首都圏の新しいMaaSはどうあるべきなのか、その時の受益者負担のモデルはどう考えるべきなのかといったところで、先ほどの税の話にもなるが、やはり今もう一度改めて考えるべきというところで、その受益者の整理の話を国交省としている。例えば山梨県が投資するとして、直接的に受益を受けるのは誰かと、そこから二次受益者、三次四次、どこまで波及するものなのかと。それで、その波及モデルの中で、どう財源を回すのかという考え方に立たないと、もうある種、各分野とかのお財布ではなかなか保たない、こういう議論になってきている。わかりやすいのが、今話題になっている電波や水道だが、そうした新しいモデル、費用負担の考え方も含めて、どこかで一つモデルを作らなければ、すべて国民が、受益者負担のところで負担しないといけないか、もしくはパブリックセクターが負担するのかという、短絡的なものになってしまって、サステナブルではない。

・そういう意味ではやはり産官学民間、特にこれからは金融も含めて、まちづくりの社会インフラ、生活インフラをどう回すべきかというところは、先ほどの大月の話もあったが、東京からの人の二拠点も試しながら、ファイナンスモデルも考えていく必要がある。

・私は今市計画学会でプロジェクトスキームの委員長をやっているが、やはりそこの財源の回し方は早急に手を打たないと難しいだろうということがある。

関岡委員

・私は以前県庁に勤めていたが、その時に、大菩薩の方で東京電力が作った大きなダムの残土処理場として、非常に広い県有地としてあったが、そこで許可も取らずに、ものすごく大きなスピーカーを持ち込んでゲリラライブが行われたことがある。大菩薩の山奥にも

かかわらず、1000人か2000人ぐらいの規模で人々が集まり、非常に集客はあったものの、麓の方にも低音が響いてきたため、そこを管理していた当時の県の森林の関係の事務所に、どうして許可したという話があった。

・そこで主催者を探し出して、どういうふうにやったかということを聞き取ったが、結局そうした山の中での大きなイベントというのは、周囲に対する影響が非常に大きい。先ほど中村委員がフェスのお話をされたが、私もフェスは大賛成で、山中湖や清里のサンメドウズスキー場といったところで、きちんとした管理のもとでやられるのは良いが、それには周りの同意などの環境整備が必要。やはり自然環境の中で大規模なことをやるというのは大変で、様々な物議を醸すと思われる。

・ただ、二拠点居住にはそうしたイベントなども大事。私も今、清里で涼風祭というものをやっており、この8月、9月で8回演奏会を開催した。落語、太鼓なども入れながら、プロの方、N響の弦楽四重奏や、地元の高校の和太鼓のグループで3年生が初めての本番を迎えられたということで、保護者の方が非常に喜んでいらっしゃったというようなこともあったが、そういった地道なイベントで文化を発信していくということが一つ大事かと思う。

・また、私はオーケストラの仕事もしているが、山梨にはプロのオーケストラが無く、山梨出身の音楽家は皆さん東京だったり、海外に出て行ったりしているので、二拠点居住に直接影響するかどうかはわからないが、山梨にそういったプロのオーケストラを育てていくことが魅力の創造につながるのではないかと思う。非常に費用がかかるお話だが、やはり県が主導しかなければできないことだと思うので、ぜひ何かそうした観点でもご検討をいただけたらと思う。

東座長

・文化の観点は非常に財源的に難しい議論があるが、一つ面白い話が出ているのが、今のオーケストラや音楽を聞きに、お年寄りをどのように家の中から出して歩かせるかということで、健康にいいですよというような実験を始めるところもあり、それは財源が社会保障になっている。家に籠もっているより脳が活性化するということで、京都大学かどこかだと思うが、音楽、アートと脳の関係性ということを研究していて、それをうまいこと社会保障圧縮に絡ませられないかと、こうしたまちづくりを検討しているエリアもある。

・コロナ禍になって、世の中スマートシティと言われているが、一つのお財布ですべて完結するというのは、産業構造が変わっているので、どう考えてもすでに不可能となっている。そういう意味では、どのように様々な財源を分野横断的にまたぎながら幸福度を上げていくかということで、そこに対して受益者が負担していくモデルが作れれば持続する。なので、そこにどうチャレンジするかということは非常に重要であり、文化も含めてまちづくりをやっていくというところの観点で、まさに山梨がやるべきところかと思う。

藤本委員

・知事の方から話のあったMaaSに関することだが、今弊社の方でも実証実験を数多くやっており、伊豆から始まって、新潟、群馬、仙台、現在は東北でやっている。

・そうしたなかで、今MaaSで変わりつつあるのが、我々はどちらかというと観光型MaaSと言われる部分で、都市型MaaSと観光型MaaSでまたやり方が違うが、地方型のMaaSに関し、居住者に対するMaaSという考え方、こうした課題が出てきている。特に高齢者対策として、スマホも持っていらっしゃらないという方に、どういった形でMaaSを実現していくのかという課題がある。

・実際に会津若松の方でやっているのは、テレビにブラックボックスをつけて、テレビを立ち上げるとホテルの画面と一緒で、最初に市のお知らせが出るようにし、そこから無料のバスを申し込むことが出来るということを行っている。

・やはり山梨県もコロナ禍のなかで、県内の方達の移動を含めた新しいMaaSの構成ということを考えていくべきタイミングかと思う。それがやはり情報の統合に繋がっていって、様々な地域、様々な方が今日参加されているが、そうした良い地域のものの情報を統合するという部分で、MaaS を活用し連携させていくという方法論もある。首都圏の方や、お話のあった名古屋、大阪の方たちに対しても、魅力的な場所であることの発信にも繋がるものであり、MaaSで情報を集約していくことは非常に重要と考えている。

東座長

・非常に重要な観点で、その情報統合をどうするかということで、私もある地域で、地域のエリアコンテンツ共通化のデータベースを作ろうという話に関わっている。

・オープンデータの文脈にも近いが、やはり各地域を見ていると、コロナ禍で開店閉店時間が変わっているわけだが、この情報がグーグルマップ上でクローニングに引っかからないという問題がある。そうするとMaaSで目的地データベースにアクセスをしても、行ったら閉まっているということが起こってしまうので、完全にデータと機能を切り分けてしまって、データに関しては共通的にパブリックが整備して、それを全部利用してください、グーグルマップだろうが観光の事業者だろうが、全部API で引っ張ってくださいということをやらないと、MaaSの目的を達成できないということがある。

・やはりMaaSで一番重要なことは、ユーザーが目的を達せられるかどうかというところで、おじいちゃんおばあちゃんがスマホの画面は小さくて見えない、喋ったら目的地に行けたらいいのにということで、自然言語系の対応のAI を入れて、呼んだら来るというレベルで実装している奈良の例もある。やはりそういったお年寄りのニーズ、声を反映すると、インターフェースは声、タブレット、サイネージ、スマホ、何でも良い。一番大事なのは、今藤本委員がおっしゃったとおり、そのエリアとしての共通のデータ、そこにアクセスできるかどうか、それが整備されていないとバラバラになってしまう。

渡辺委員

・二拠点居住といった取り組みも良いと思うが、キャッチーな言葉も必要。「暮らし」と「仕事」で合わせて「クラシゴトやまなし」といった言葉を、話を聞いていて考えた。

長崎知事

・委員の皆様、貴重なご意見ありがとうございました。

・今日の議論は極めて多岐に渡ったので、少し整理をしたいと思うが、すぐに出来ることは、早速取り組んでいきたい。

・一つは、二拠点居住者の把握ということは、これから様々な行政サービスをしていくうえで重要になってくると思われる。教育において、お子さんを一時、東京の小学校から山梨の小学校で受け入れて、また時期が来たら帰しますということも、これが把握できればスムーズに実施でき、例えば二拠点居住をしていますという証明を出せるとしたら、先ほどローンの税制控除の話など、様々なものにも使えるのではないかと思う。

・コミュニティづくりが一つやはりテーマになった。これは極めて重要で、コミュニティがないとはじき返される。移住されてきた方が、地域からはじかれて帰ってしまうという、これはもう過去何度も繰り返されていることなので、今回そういう轍を踏まないように、コミュニティごと来ていただくか、あるいは来ていただいたコミュニティを、しっかり地元とのインターフェースも作りながら、なおかつそのコミュニティを重要視する形での仕組みというのは、専門のところには様々な知見があるようなので、そういうのをいただきながら取り組んでいきたい。

・レストランの話は我が意を得たりであり、これは至急取り組んでいきたい。

・移動の問題についてはまだ現在進行中の検討事項だが、画面付きのAIスピーカーを使いながら、それをベースとして誰でも呼ぶことが出来るといったことを考えている。AI ではないが、実際に似たようなものは道志村ですでに実際に使われている実例もあるので、こういったものも参考にしながら、例えばMaaSや遠隔医療など、山梨に来られた方のコンシェルジュ的な役割にもなるので、真剣に取り組んでいきたい。

・その他全て言及しきれなかったものも多いが、少し頭の整理をして、また委員の先生方にフィードバックするなかで議論を積み重ねていけるようにしたい。

東座長

・今後一番重要なのが、地元の人もどれだけシビックプライドを持てるかということ。受け入れるに際して、やはり山梨はいいんだと、受け入れるからぜひ来てくださいというところにどう持っていくかということが重要で、よく言われているスマートシティに関しても、一番重要な視点は、日頃諦めていること、仕方がないということをどれだけとっぱらうか、という話を良くしている。

・先ほどの義務的移動や義務的居住が無くなっていくとより豊かになるという話で、子育て

があるから仕方ないここに住もうかとか、会社があっちにあって仕方ないから満員電車に乗ろうとか、これがすべて消されたら本当に豊かな暮らしになっていく。日頃何か諦めていることはないですか、その諦めがなくなりますよという話が今後一番重要かと思うので、ぜひそういう観点でコミュニケーションしながら、受け入れも含めて、検討が出来ればと思う。

長崎知事

・「一所懸命」という言葉を超克しないといけない。

東座長

・この地域は高校まで、大学がないからみんな子供が出ていっているという、これが諦め。そうであれば駅前にサテライトを作ればいい、規制改革して教育制度改革すればという話があって、都市計画もそうだが、諦めが我々の生活を制限している。難しい言葉を使っても通じず、むしろどんどんテクノロジーギャップ、リテラシーギャップが広がってしまうので、これをとっぱらうのがスマートシティだと言っている。

・そういう意味では、そこをよりわかりやすくどう伝えるかということが、まさに知事にやっていただきたいこと。社会要請が最終的に社会実装のときにハードルになるので、そこのコミュニケーションが一番大事。

・この自然首都圏も、いかにわかりやすい言葉で伝えていくか、コミュニケーションをやっていくかということが、今後我々一番注力しないといけないところかと思う。

以上